



尼崎市立ユース交流センターは、青少年一人ひとりが 成長と自己実現ができる居場所を目指しています。 Amagasaki Youth Consorțium.

設置目的

○青少年の健全な育成及び福祉の増進

○**ユースワークの視点に立った市内の青少年の居場所づくり事業の拡充**に取り組み、 様々な交流活動を通じて青少年の成長を支援する拠点施設となることを目指す。



活動の拠点あまぽーと



学びの拠点 アマブラリ

尼崎市若王寺2丁目18番4号 あまがさき・ひと咲きプラザ内

開館日:火~土曜日 午前9時~午後9時(小学生午後5時・中学生午後8時まで)

日曜日・祝日・振替休日 午前9時~午後5時(小学生午後5時・中学生午後8時まで)

休館日:月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始













学びと育ちに関わる市民・団体の交流の場として

学びと育ちに関わる市民・団体に広く開放し、イベントやミーティングスペース等 として活用する。



活動支援室1(定員24名)



活動支援室2(定員45名)



多目的室 (定員半面36名・全面72名)



音楽スタジオ1・2 (定員各5名)



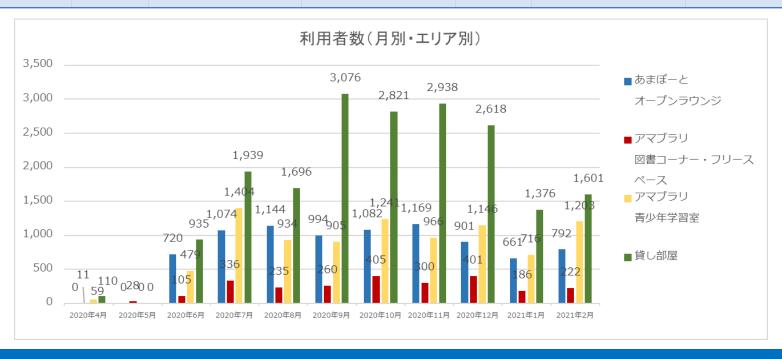
ホール (定員180名)



青少年学習室(定員78名)

利用者	数	昨年度月平均:2,753人(日平均:105.6人) 今年度月平均:1,825人(日平均:71.4人)									
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
70	28	1,304	2,814	2,313	2,159	2,728	2,435	2,448	1,563	2,217	20,079

貸館利用者数 昨年度月平均:1,903人(日平均:178.5人) 今年度月平均:1,737人(日平均:139.8人) 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 合計 935 1,939 110 0 1,696 3,076 2,821 2,938 2,618 1,376 1,601 19,110







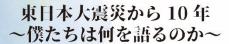












東日本大震災から 10 年。被災された方 や支援を続けている方をゲストに招き、 それぞれの 10 年を振り返ります。災害 や防災について考えてみませんか?

○日時 2021/03/13 15 時~17 時 ○場所 オンライン Zoom ○出演 足輪車立ユース交流センター 今井&高校生

尼崎市立ユース交流センター 今井&高校! ○ゲスト 久保力也/田中 雄/田畑祐梨/安田もえ

【お問い合わせ】尼崎市立ユース交流センター(担当: 今井) 06-6423-7788 imai@youthconso.jp



参加申込 (Peatix)





▶尼ゆーすチャット

施設が使えないことで、特に居場所がなくなってしまう子どもたちとつながることを心がけて実施!

【6月末時点】登録257名(126名が利用)→ 【現在】登録は419名(222名以上が利用)

施設が使えない…スタッフに会えない…学校もない…

そんなみなさまの声にお応えして、スタッフと連絡が取れる公式LINEをご紹介!

その名も、【尼ゆーすチャット】

みんなと会えない・・・

家で暇だ・・・

そんなネガティブな今だからこそ、LINEでいっぱいお話しましょう!!!

僕たちも、みなさんにお会いできなくて寂しいです。泣

いっぱいLINEしてくださいねー!

〇内容

- ・何気ない会話
- ・スタッフへの質問
- ・お悩み相談

なんでもOK!!!!! 暇つぶしに使ってください!

【尼ゆーすチャット】スタートします!

オンラインイベント お知らせ | 2020.03.03



▶オンラインユース交流センター

とある女子高生の投稿

「コロナのせいで色んな楽しみも青春も奪われていく・・・」

オンラインユース交流センターへようこそ!

ユース交流センターでは5月6日までの間、できるだけ通常と同じような形でみんなと関われるように、オンライン上でのユース交流センターを作りました。

家で一人でいるのもなんか退屈だな・・・

ちょっと誰かと話したいな!

この勉強分からないから教えてほしい! などなど

どんな方でも参加できます!

ユース交流センターに来たことない子も、ぜひこの機会に遊びに来てください!

イベントだけでなく、個別で話せる部屋もあります。

みんなでワイワイするのもよし!個別でお話するのもよし!

友達同士で顔を合わせながら勉強もできます!



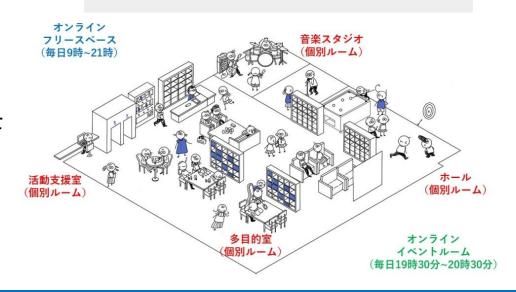
■オンラインユース交流センター

開設日:火曜から日曜 9時~21時

休館日:月曜日

※オンラインではZOOMというアプリを使用します。ダウンロードはこち

b!



▶オンラインユース交流センター ~イベント編~

























友達に会えないのが寂しい。 (中3女子)	家族の関係が悪くなってきてしんどい。 (高3女子)
ずっと家に居るとゲームばっかりやってしまう。(高1男子)	家庭内で喧嘩が起きたとき学校や部活がないため家にいなくて はいけないことが苦痛。(中3男性)
就職できるのか、募集があるのか、どうなるのかが不安。(高 2 女子)	好きな時に寝て好きな時に起きるから、時間感覚狂う。(高1年 男子)
新しい学校の人たちとLINEグループはあるけど、どう話していいか分からない。(中3男子)	課題がどんどん増えて、終わらない。(高2女子)
ーちょっと出かけたくて外に出ても何か罪悪感感じてしまうから嫌だ。(高2女子)	暇すぎて疲れた。(中3男子)
テレビを見るのも疲れた。(高1男子)	クラス替えだけして休校になって、そのクラスに馴染め無さそ うだから、学校行きたくない。(中 2 女子)
何気なく友達っや人と会って話できるのって、実は素晴らしい ことやったと気付いた。(高2女子)	バンド練習ができなくてつらい。(中3女子)
コロナのせいでいろいろ損してる気がする。(中3女子)	進路に悩んでいるが、進路指導の先生にも相談できないから、 どうしたらいいか分からない。(高3女子)
世界的に2020年は無かったことにしてコロナが終わったら再スタートして欲しい。(高校中退男子)	一人で集中で出来ず、課題が終わらない。(高3女子)
何部に入ろうか悩んでいるが、仮入部などあるのか不安。(中 3男子)	早く元通りの生活に戻りたい。(高1男子)

- ▶ dialogue for with コロナ
- ~市長と教育長と中高生と~

自分たちの知らないところで決まっていたことを整理する。納得できるものをつくっていく。

尼崎市立ユース交流センターに来館している青少年にアンケートを実施した。(回答109名)









◀青少年にアンケート(109名) ワードクラウドにして、気になる ところをピックアップ!

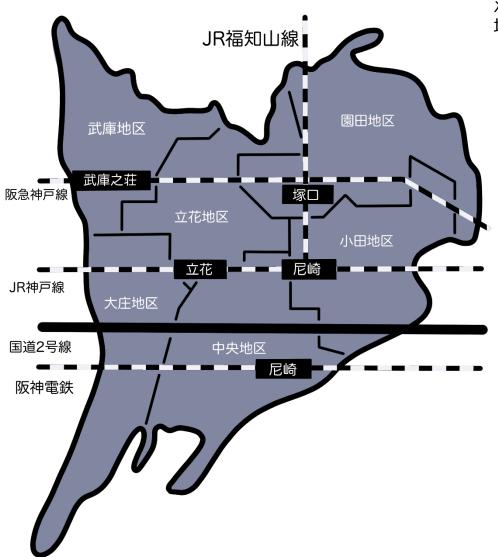
ユース交流センターサテライト事業

【武庫地区】 地域の方で実施している MUKOカフェ内に月1回イベ ントを実施している。



【立花地区】 毎週実施しているたちばな学 習室で、月3回の頻度でイベ ントを実施している。





【園田地区】

双星高校での居場所カフェを 地域の団体と一緒に実施して いる。



【小田地区】 小田地域課と様々なイベント を実施している。

- ・ODAフェス
- ・スタディイベント
 - ·e-sports大会



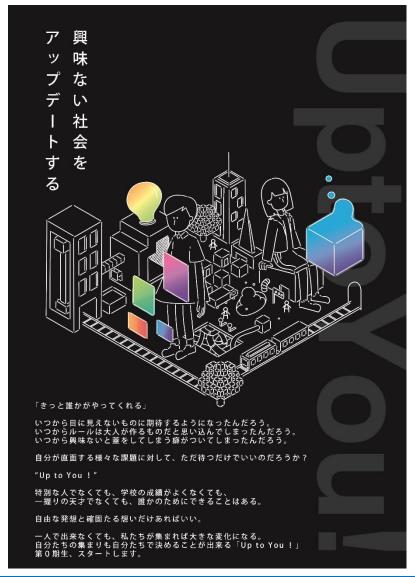
▶Up to You! (ユースカウンシル事業)

若者の声を社会に届ける。 若者が課題だと思うことや不安に思うことを 市の施策として取り組んでいく。

■参加者24名 (中学生1名、高校生19名、大学・専門学 生2名、社会人2名)

- ■課題と感じること
- ・学校の校則
- 公園のルール
- スケートボード場ない(通報される)
- ・ライブハウスない
- ・自転車など交通ルール
- ・LGBTQの偏見
- ・多様な人と交流できる機会がない

など











相談回数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
_	_	34	23	18	23	38	36	36	33	56	300

アプローチ

【ユースセンターにくるきかっけ】

ソーシャルスクールワーカー / ケースワーカー / コミュニティワーカー /引きこもり支援相談員 /LINEでの相談 など

【利用者の相談】

- ・家庭での悩み(虐待・ネグレクト・家にいたくない・経済的な問題)
- ・学校での悩み(いじめ・学校の先生とのトラブル・不登校)
- ・友人関係での悩み(コミュニケーション・恋愛・距離感)
- ・自分についての悩み(LGBTQ・将来への不安・生きる意味・自分の活動場所がない・障がい)

【職員として】

毎週1回のケース会議&福祉的な視点での見立て

→市の相談機関、不登校適応指導教室、学校への働きかけ(民間の児童養護施設などとも連携)

○ユースセンターの周知方法について

- ・現在市内にある中学校・高校の在籍者数に対して、センターが直接関係を持っている中高生の割 合は6.5%(令和2年度)であった。
- ・また、保護者を含む大人の方も、「尼崎市にこんなところがあるなんて知らなかった」と話す人 も多い。(大人への認知も低い)

【現在の広報】

- ・尼崎市のHP ・HPやSNS

・チラシの全校配布(年1回)

- ・市報(オープン時)・市内の施設でのチラシの設置
- ・サテライト事業や学校への訪問

○学校や福祉機関との連携方法について

- ・不登校や家庭の事情などを相談にくるケースが増えてきており、いくしあとケースについて相談 する場面が増えてきている。(そのほか、児童養護施設や学校にいく場面もあり)
 - ▶今後どのような機関とつながっていくのか、どのような体制を築いていくのか。
- ・学校から今年度クレームがあった。(内容としては、①不登校の生徒などがセンターに入り浸っ ている。②他校の生徒と付き合うなどの不純な行為が生じている ③連絡体制などリスク管理を決 めてほしい。)
- ➤福祉的な観点からも今後学校との連携は必要だと考えるが、センターの価値や役割など学校に 理解してもらうためにどのように働きかけるのが良いか。